

評価者	こどもみらい部長	進藤 勝
評価者	健康福祉部長	内海正彦

◎ 評価対象分野・施策の方針

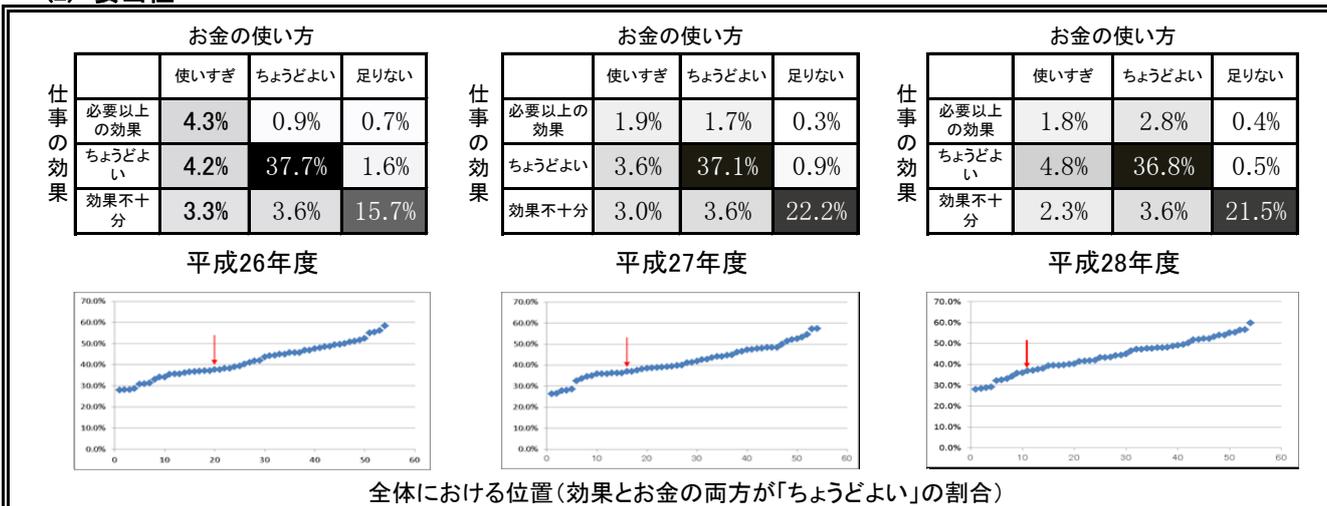
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援
------------	----	-----	-------	---------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	22.0%	平成27年度	20.5%	平成28年度	21.1%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



<妥当性の分析>

◎ こどもみらい部

お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が36.8%と、選択肢の中で最も多くなっており、昨年度とほぼ変わらない。次に多いのは、お金が足りず、効果は不十分の21.5%であり、市民意識では、地域生活の支援サービスに対し、支援が不足しているという印象が強い上に、昨年度よりやや減少しているとはいえ更なる向上を求められていると捉えることができる。

お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えている人の割合は、施策の方針等の中では、やや低い値となっており、昨年度よりもさらに下がっている。すべての子育て家庭への支援の取組について、認知度はやや向上傾向にあるが、実際に支援を受けていない家庭については、まだ十分ではないことが、主な要因と考えられる。「ちょうどよい」と答えている人の割合はやや減少傾向にあるが、仕事の「効果不十分」でお金の使い方が「足りない」割合が、平成28年度にやや減っているものの、かなり高い割合が続いている。

今後の取組として、国県等の補助金等の更なる活用など、さらに歳入の確保に努め、子育て家庭へ十分な支援が行き渡るよう努めていく。

◎ 健康福祉部

認知度についてはほぼ横ばいであり、約8割が認知していることから、子育て施策についての関心が高いと考えられる。

平成28年度は、お金の使い方、仕事の効果とも「ちょうどよい」は36.8%で、平成27年度から0.3ポイント低下しているものの経年的に安定しており、子育て支援が予算を必要とする事業であることについてある程度理解を得られていると考えられる。

一方、お金の使い方、仕事の効果の「足りない・効果不十分」が21.5%あり、医療費助成等子育て支援策を求め声があることがうかがえる。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	32.9%	38.2%	3.6%	25.4%	100.0%
平成27年度	33.8%	37.6%	2.7%	25.9%	100.0%
平成26年度	29.1%	39.4%	4.3%	27.2%	100.0%

## 2 内部評価

### (1) 平成28年度の目標

<p><b>◎こどもみらい部</b></p> <p>①今後も必要に応じ児童福祉審議会を開催、意見を聴取し適切な事業実施に努める。(こども-01)</p> <p>②子育て支援団体や地域のボランティア等と一緒に「一日冒険遊び場」の常設化を進めていく。また、保育コンシェルジュ及びかまくら子育てメディアスポットの更なる活用について検討していく。(こども-02)</p> <p>③子育て中の親子に対して身近に集える場所を提供し、親子同士が交流できるようにするため、継続してつどいの広場を運営する。(こども-03)</p> <p>④公立保育所の適切な施設管理を図るための修繕を計画的に実施するとともに、突発的な修繕にも適時、適切に対応する。(こども-04)</p> <p>⑤幼稚園等就園奨励費補助金、私立幼稚園教材教具購入費等及び健康診断費補助金及び鎌倉私立幼稚園協会補助金事務を適切に行うとともに、就園奨励費の補助単価増額等の要望に対して、厳しい財政状況という本市全体の課題を踏まえ、市単独補助部分のあり方を検討する。(こども-05)</p> <p>⑥利用者支援事業として保育コンシェルジュ事業を開始し、一時預かりや延長保育事業などの地域子ども・子育て支援事業について、研修等を通じて知識を深め、利用者が円滑に利用できるよう取り組む。(こども-02)</p> <p>⑦育児放棄や児童虐待に対する予防、早期発見を目指すため、各種相談事業や家庭訪問など、相談体制を充実させる。(こども-17)</p> <p>⑧多様化する子育てニーズに対応するため、子育て支援センターの更なる整備を図るとともに、子育て支援情報の把握及び積極的な情報発信を行い、地域全体で子育てを支援していくため、各事業を継続して実施していく。(こども-19)</p> <p>⑨派遣保育士を活用して安定的な運営を図る。(こども-15)</p> <p>⑩施設の大規模化に対して、必要な備品等を整備していく。(こども-15)</p> <p>⑪梶原子ども会館は、平成28年10月に指定管理者制度がスタートするため、引継ぎ等を含め、運営に支障のないよう、移行していく。(こども-25)</p> <p>⑫児童発達支援センターあおぞら園で実施する事業については、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による実施に向けた検討を引き続き行っていく。また、民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有の強化を図り、市全体としての障害児支援のスキルアップに継続的に取り組み、センターとしての機能強化について検討していく。(こども-31)</p> <p>⑬保育所等訪問支援事業については、今後利用児童の増加が見込まれる場合、職員配置のあり方の検討が必要となる。また、対象施設とのさらなる連携強化を図っていく。(こども-31)</p> <p>⑭施設管理の側面では、施設建築後38年を経過し、建物全体の老朽化が進んでいる。そのため、利用者の安全が図られるよう公共施設の再編計画の方針を踏まえつつ、修繕計画を策定し、大規模修繕を含む修繕を計画的に実施し、適正な維持管理を進めていく必要がある。(こども-31)</p>	
<p><b>◎健康福祉部</b></p> <p>①医療費助成の適正化を継続して検討する。(健福-52)(健福-53)</p> <p>②小児医療費助成及びひとり親家庭等医療費助成について、県内各市の一部負担金導入に係る検討状況を引き続き把握する。(健福-52)(健福-54)</p> <p>③未熟児養育事業については、法定事務のため今後も現状維持とする。(健福-53)</p>	

### (2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
こども-01	児童福祉運営事業	1,552	620	11,430	14,073	1.2	1.7	b	B
こども-02	子育て支援事業	2,963	4,095	14,487	19,131	1.4	1.9	a	B
こども-03	地域子育て支援拠点事業	4,332	2,818	29,849	15,480	3.1	1.6	b	B
こども-04	公立保育所管理運営事業	15,213	13,774	20,975	20,896	0.7	0.9	b	B
こども-05	就園支援事業	257,634	261,380	268,335	283,539	1.3	2.8	a	A
こども-07	私立保育所等助成事業	5,740	5,916	5,740	5,916	0.0	0.0	b	B
こども-10	児童福祉運営事業	17,328	15,101	18,105	15,873	0.1	0.1	b	B
こども-11	特定教育・保育施設支援事業	2,081,517	2,153,730	2,097,062	2,184,627	2.0	4.0	b	B
こども-12	特定地域型保育支援事業	55,429	111,479	63,202	126,927	1.0	2.0	b	B
こども-13	特別保育事業	61,703	67,738	73,362	87,048	1.5	2.5	b	B
こども-14	私立保育所等助成事業	476,162	470,178	483,935	477,902	1.0	1.0	b	B

こども-15	公立保育所管理運営事業	334,225	360,984	1,032,989	1,055,384	89.9	89.9	b	B
こども-17	児童福祉運営事業	12,878	14,077	23,357	24,368	1.3	1.3	b	B
こども-18	子育て支援事業	2,293	2,405	6,323	6,363	0.5	0.5	b	A
こども-19	地域子育て支援拠点事業	27,679	28,604	31,709	32,562	0.5	0.5	b	A
こども-20	ファミリー・サポート・センター事業	10,299	10,464	16,747	16,797	0.8	0.8	a	A
こども-21	養育支援訪問等事業	1,978	692	3,590	2,275	0.2	0.2	b	B
こども-22	児童手当支給事業	2,390,279	2,349,200	2,406,400	2,365,032	2.0	2.0	b	B
こども-23	入院助産等事業	10,759	10,548	12,371	12,131	0.2	0.2	b	A
こども-24	ひとり親家庭等生活支援事業	323,436	304,491	335,527	316,365	1.5	1.5	b	A
こども-25	子ども会館・子どもの家管理運営事業	287,596	399,032	311,310	423,520	2.9	3.0	a	A
こども-31	あおぞら園管理運営事業	49,871	52,766	180,209	175,407	17.0	16.0	b	B
健福-52	小児医療助成事業	464,253	437,820	463,980	445,441	1.0	1.0	b	A
健福-53	未熟児養育医療事業	7,051	5,682	8,792	7,968	0.3	0.3	b	B
健福-54	ひとり親家庭等医療助成事業	65,950	59,671	69,761	63,481	0.5	0.5	b	B

### (3) 主な実施内容

#### 【主な実施内容】

##### ◎こどもみらい部

- ①子ども・子育て会議を開催し、意見を徴取し、子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン」の推進に努めた。児童福祉審議会は、審議事項がなく開催しなかった。(こども-01)
- ②子育て家庭に情報提供をするために保育コンシェルジュ、子育てメディアスポットを活用するとともに、一日冒険遊び場、子育て家庭を対象とした講座・イベントなどを開催した。(こども-02)
- ③つどいの広場等、子育て中の親子に対し身近に集える場を提供し、親子同士が気軽に交流できるようにした。(こども-03)
- ④公立保育所の効率的な運営と維持管理に必要な修繕を適時、適切に実施することができた。(こども-04)
- ⑤幼稚園等就園奨励費補助金について市単独部分のあり方の検討を行うとともに、私立幼稚園教材教具購入費等及び健康診断費補助金及び鎌倉私立幼稚園協会補助金事務を適切に行った。(こども-05)
- ⑥利用者支援事業として保育コンシェルジュ事業を準備し、一時預かりや延長保育事業などの地域子ども・子育て支援事業について、研修等を通じて知識を深め、利用者が円滑に利用できるよう取り組んだ。(こども-02)
- ⑦「こどもと家庭の相談室」の運営や個別ケースの家庭訪問等を通じ、育児放棄を含めた各種の児童虐待ケースに対し、対応を図った。(こども-17)
- ⑧市内に4ヵ所ある子育て支援センターの運営については、各センターの運営を指定管理により行うとともに、指定管理期間が平成29年3月末日で満了となることから、平成29年度以降(平成33年度まで)の指定管理者の指定を行った。(こども-19)
- ⑨派遣保育士を活用した(こども-15)
- ⑩材木座保育園・稲瀬川保育園の統合保育園となる(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設に向けて住民調整、神奈川県への保育所変更届の提出を行った。(こども-15)
- ⑪梶原子ども会館について、平成28年10月1日から指定管理により運営を開始した。(こども-25)
- ⑫児童発達支援センターあおぞら園では、障害児支援の拠点施設として、その専門性を高めるための人材育成、職員研修プログラムに基づいた園内職員研修を継続的に実施してきた。(こども-31)
- ⑬市民等との協働事業については、鎌倉女子大学児童学部こども心理学教授飯村敦子氏をスーパーバイザーに迎え、療育活動の質の向上を図る目的で、ムーブメントプログラムの導入について平成17年度から継続的に取り組んできている。(こども-31)
- ⑭民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有については、障害者福祉課が所管する「鎌倉市児童通所支援事業所連絡会」等を通じて情報共有、連携を図ってきた。(こども-31)
- ⑮発達に特別な支援を必要とする児童が在籍する幼稚園、保育園等を支援員が訪問し、対象児への支援及び園の職員へ助言等、園の職員と連携を図りながら集団生活をスムーズに過ごすための支援を実施した。(こども-31)
- ⑯施設管理については、平成27年度に前期工事を終えた内装クロス張替え工事の後期工事を施工し、完了した。また、園庭遊具(鉄棒)の取替え修繕を実施し、次年度以降も順次継続していく。施設建築後39年を経過し建物全体の老朽化が進んでいるため、利用者の安全が図られるよう公共施設の再編計画の方針を踏まえてふるさと寄付金による新たな設

##### ◎健康福祉部

- ①医療費助成の適正化を継続して検討した。(健福-52)(健福-53)
- ②小児医療費助成及びひとり親家庭等医療費助成について、県内各市の一部負担金導入に係る検討状況を把握した。(健福-52)(健福-54)
- ③未熟児養育事業については、法定事務のため今後も現状維持とする。(健福-53)
- ④小児医療費助成については、2月の議会で中学3年生までの通院についても医療費を助成することが議決され、29年10月実施に向けて準備を進めている。(健福-52)

#### 【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

◎こどもみらい部			
効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善
<b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉市子ども・子育て会議及び鎌倉市子ども・子育て会議庁内推進委員会を2回開催し、子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン」の推進に努めた。</li> <li>・保育所等整備事業においては、私立保育所整備事業として、暫定措置として設置している玉縄地域の私立保育所分園の機能の移転地及び待機児童対策として、フラワーセンター大船植物園本園苗ほ跡地を継続して賃借した。また、公立保育所の効率的な運営と維持管理に必要な修繕を適時、適切に実施することができた。</li> <li>・子ども会館・子どもの家管理運営事業においては、梶原子ども会館の運営を子育て支援団体とともに実施するとともに、指定管理者を指定し平成28年10月に指定管理者制度を導入した。また、各小学校区に子どもの家を設置し、支援員のもと学童保育を行うとともに、子どもの家に併設又は単独で設置する子ども会館により、地域の乳幼児・小中学生に遊びの場を提供した。</li> <li>・地域子育て支援拠点事業については、こどもと家庭の相談室での相談等相談体制の充実は、業務、人員等整理し、適切に実施できた。</li> <li>・あおぞら園では、障害児支援の拠点施設として、専門性を高めるため人材育成、職員研修プログラムに基づいた園内職員研修を継続的に実施しており、民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有については、障害者福祉課が所管する「鎌倉市児童通所支援事業所連絡会」等の場面を通じて情報共有、連携を図ってきた。また、市民等との協働事業については、鎌倉女子大学児童学部こども心理学科教授をスーパーバイザーに迎え、療育活動の質の向上を図る目的で、ムーブメントプログラムの導入について平成17年度から継続的に取り組んできた。</li> <li>・以上のほか、事業取組みは事業費等の経費面からも効果面からも概ね適切な取り組みを行っているとして評価できる内容であり、総体としては、「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、成果が得られたと考えられる。</li> <li>・公立保育所の維持管理に必要な修繕を適時、適切に実施することができた。</li> </ul>			
◎健康福祉部			
効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善
<b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b>			
<p>効率性については、補正予算による事業費の拡大もなく、大幅な超過勤務の増加もなかった。妥当性・有効性については、事業に対する必要性が申請状況からうかがえる。受益機会も条例・規則に基づき適正に行われた。</p>			

### 3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

#### ◎こどもみらい部

- ・児童福祉運営事業については、今後も必要に応じ児童福祉審議会を開催し、意見を聴取し適切な事業実施に努める。また、子ども・子育て会議を開催し、子育て支援事業計画の推進に努める。
- ・子育て支援事業については、既存の施設や公園等を有効活用するため、庁内の関係課と連携を図るとともに、子育て支援団体や地域のボランティア等と一緒に「一日冒険遊び場」の常設化を検討していく。また、保育コンシェルジュ及びかまくら子育てメディアスポットの更なる活用について検討していく。
- ・地域子育て支援拠点事業については、子育て中の親子に対して身近に集える場所を提供し、親子同士が交流できるようにするためにも、継続してつどいの広場を運営していく必要がある。
- ・就園支援事業については、就園奨励費の第2子の補助を市単独費で増額し、実質無償化を図ることとしたため、今後も多子世帯の負担軽減のため、補助単価を維持していく。
- ・子ども会館・子どもの家整備事業については、利用者の現在の利用状況と利用希望を踏まえて設定した量の見込みの数値目標を満たすため、計画の進行管理、評価に取り組む。
- ・利用者支援事業として保育コンシェルジュ事業を推進し、一時預かりや延長保育事業などの地域子ども・子育て支援事業について、研修等を通じて知識を深め、利用者が円滑に利用できるよう取り組む。
- ・児童発達支援センターあおぞら園で実施する事業については、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による実施に向けた検討も引き続き行っていく。保育所等訪問支援事業については、対象とする児童の範囲について検証し、職員配置のあり方についても検討する。また、対象施設とのさらなる連携強化を図っていきたい。施設管理の側面では、施設建築後39年を経過し、建物全体の老朽化が進んでいる。そのため、利用者の安全が図られるよう公共施設の再編計画の方針を踏まえつつ、修繕計画を策定し、ふるさと寄付金による新たな設備拡充も含めて、修繕を計画的に実施し、適正な維持管理を進めていく必要がある。

#### ◎健康福祉部

- 医療費助成の適正化を継続して検討する。また、小児医療費助成及びひとり親家庭等医療費助成について、県内各市の一部負担金導入に係る検討状況を引き続き把握し、必要に応じて検討する。
- 未熟児養育事業については、法定事務のため今後も現状維持とする。
- 2月議会で中学3年生までの通院についても医療費を助成することが議決され、29年10月実施に向けて準備を進めている。

### 4 平成29年度の目標

#### ◎こどもみらい部

- ①今後も必要に応じ児童福祉審議会を開催、意見を徴取し適切な事業実施に努める。また、子ども・子育て会議を開催し、子育て支援事業計画の推進に努める。
- ②子育て支援団体や地域のボランティア等と一緒に「一日冒険遊び場」の常設化を検討していく。また、保育コンシェルジュ及びかまくら子育てメディアスポットの更なる活用について検討していく。
- ③子育て中の親子に対して身近に集える場所を提供し、親子同士が交流できるようにするため、継続してつどいの広場を運営する。
- ④公立保育所の修繕を計画的に実施するとともに、突発的な修繕にも適時、適切に対応する。
- ⑤幼稚園等就園奨励費補助金、私立幼稚園教材教具購入費等及び健康診断費補助金及び鎌倉私立幼稚園協会補助金事務を適切に行う。
- ⑥利用者支援事業として保育コンシェルジュ事業を推進し、一時預かりや延長保育事業などの地域子ども・子育て支援事業について、研修等を通じて知識を深め、利用者が円滑に利用できるよう取り組む。
- ⑦育児放棄や児童虐待に対する予防、早期発見を目指すため、各種相談事業や家庭訪問など、相談体制を充実させる。
- ⑧様化する子育てニーズに対応するため、子育て支援センターの更なる整備を図るとともに、子育て支援情報の把握及び積極的な情報発信を行い、地域全体で子育てを支援していくため、各事業を継続して実施していく。
- ⑨保育士の派遣を活用して安定的な運営を図る。
- ⑩児童発達支援センターあおぞら園で実施する事業については、事業内容の充実や効果的な事業運営の視点を持ち、市民等との協働による実施に向けた検討も引き続き行っていく。
- ⑪保育所等訪問支援事業については、対象とする児童の範囲について検証し、必要な職員配置について検討していく。また対象施設とのさらなる連携強化を図っていく。
- ⑫施設管理については、施設建築後39年を経過し、建物全体の老朽化が進んでいる。そのため、利用者の安全が図られるよう公共施設の再編計画の方針を踏まえつつ、修繕計画を策定し、ふるさと寄付金による新たな設備拡充も含めて、修繕を計画的に実施し、適正な維持管理を進めていく必要がある。

◎健康福祉部

①医療費助成の適正化を継続して検討する。また、小児医療費助成及びひとり親家庭等医療費助成について、県内各市の一部負担金導入に係る検討状況を引き続き把握し、必要に応じて検討する。当該業務は、さらなる受給者対象者の利便性の向上に向けた取り組みについては課題として捉えており、今後子どもみらい部への移管を視野に入れ検討を行う予定である。  
 ②2月議会で中学3年生までの通院についても医療費を助成することが議決され、29年10月実施に向けて準備を進める。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	こども-01	事業名	児童福祉運営事業					単位	回	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	鎌倉市子ども・子育て会議の開催回数											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
鎌倉市子ども・子育てきらきらプランの着実な進行管理を行うため。	目標値		2	2	2	2	4					
	実績値		2	2								
	達成率		100.0%	100.0%								
整理番号	こども-02	事業名	子育て支援事業					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	一日冒険遊び場の開催回数											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
一日冒険遊び場常設化に向けて、具体的な事業実施の手法の検証となるため。	目標値	12	12	24	24	24	24					
	実績値	11	12	22								
	達成率	91.7%	100.0%	91.7%								
整理番号	こども-03	事業名	地域子育て支援拠点事業					単位	地域	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	子育て支援センターの無い地域におけるつどいの広場の開設地域数											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
親子同士が気軽に交流できる場としての「利用しやすさ」を図る指標となるため。	目標値	1	1	1	1	1	1					
	実績値	1	1	1								
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%								
整理番号	こども-04.08.11.12.15	事業名	公立保育所管理運営事業、特定教育・保育施設支援事業、特定地域型保育支援事業					単位	人	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	待機児童数(各年度4月1日現在)											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められるため。	目標値	5	3	1	0	0	0					
	実績値	55	50	44								
	達成率	9.1%	6.0%	2.3%								
整理番号	こども-05	事業名	就園支援事業					単位	円	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	市単独助成部分(市民税所得割額211,201円以上の第一子)の金額											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
厳しい財政状況という本市全体の課題を踏まえつつ市単独部分を推進する必要がある	目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000					
	実績値	32,000	30,000	30,000								
	達成率	106.7%	100.0%	100.0%								

整理番号	こども-19	事業名	地域子育て支援拠点事業									
指標の内容	子育て支援センター利用者数(利用者(親子)の総人数)					単位	人	指標の傾向	↗	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
事業のニーズ把握	目標値	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	32,000					
	実績値	22,287	30,946	36,792								
	達成率	69.6%	96.7%	115.0%								
整理番号	こども-20	事業名	ファミリー・サポート・センター事業									
指標の内容	利用者数					単位	人	指標の傾向		備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
事業のニーズ把握	目標値	2,120	2,120	2,120	2,120	2,120	2,120					
	実績値	3,313	3,417	3,480								
	達成率	156.3%	161.2%	164.2%								
整理番号	こども-24	事業名	ひとり親家庭等生活支援事業									
指標の内容	ひとり親家庭自立支援員相談件数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
相談件数の把握	目標値	900	900	900	900	900	900					
	実績値	704	830	674								
	達成率	78.2%	92.2%	74.9%								
整理番号	こども-26	事業名	子ども会館・子どもの家管理運営事業									
指標の内容	子どもの家のニーズ量を確保する。					単位	人	指標の傾向	↗	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」では学童保育(子どもの家)のニーズ量の見込みに対して、平成31年度まで確保することを目標としているため。	目標値		1,691	1,673	1,686	1,666	1,666					
	実績値	1,355	1,649	1,719								
	達成率		97.5%	102.7%								
整理番号	こども-31	事業名	あおぞら園管理運営事業									
指標の内容	延べ利用件数					単位	人	指標の傾向	↘	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
利用者のニーズを把握するため。	目標値	6,270	6,210	6,153	5,661					開園日数(H28年度(予定)・227日、H27年度・223日、H26年度・230日、H25年度・228日、H24年度・228日、H23年度・223日)		
	実績値	6,272	5,680	4,785								
	達成率	100.0%	91.5%	77.8%								
整理番号	健福-52	事業名	小児医療助成事業									
指標の内容	償還払いの件数					単位	件	指標の傾向	↘	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
事務の合理化と伴にレセプトの適正な請求をすることに連携するため。	目標値				3,000	2,900	2,800			領収書枚数		
	実績値	3,451	3,522	3,184								
	達成率											
整理番号	健福-54	事業名	ひとり親家庭等医療助成事業									
指標の内容	償還払いの件数					単位	件	指標の傾向	↘	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
事務の合理化と伴にレセプトの適正な請求をすることに連携するため。	目標値				320	300	290			領収書枚数		
	実績値	399	351.0	343								
	達成率											

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・子ども・子育て会議などでの意見は、本当に問題を抱え困っている現役世代の親の意見をどこまで抽出できているのかが気がかりである。

・目標である「育児放棄や児童虐待は少なくなっています」に近づいているのか疑問が残る。「育児放棄や児童虐待は少なくなっている」というまちの姿に沿った事業展開が弱いという印象を受ける。

・発達に特別な支援が必要な子どもの数は増加傾向にあるが、その対応は十分でない印象である。

・発達障害等グレーゾーンの子どもたちを持つ家庭への施策を充実することが求められる。

・「～事業を行った」との記述のみで具体性に欠けるため評価しにくい。事業を実施した結果どのような成果となっているかが分からない。

・様々な取組に対して評価できる一方、設定している指標がまとまっておらず、各事業がどの程度目標達成しているのかが見えてこない。

・市民からの意見やそれに基づいて行った事業等は、より具体的に記載しないと分からない。

・非常に多くの指標を設定しているが、設定した理由に結びつかないものが多い。

・「未然防止体制の充実」「利用者数」「支援会員」「依頼会員」など、「目標とすべきまちの姿」の実現との結びつきが明確ではない指標が設定されているので、再考の余地がある。また、「ひとり親家庭自立支援員相談件数」は増えた方が良いと考えているのか、減った方が良いと考えているのか？その理由が分からない。

指摘への対応、コメント等

◎こどもみらい部

子ども・子育て会議は、保育園・幼稚園・子どもの家等の保護者の他、子育てに係る団体から推薦された委員で組織されている。それぞれの立場からの問題や意見について議論し、子ども・子育て支援事業計画の推進に努めていく。

◎こどもみらい部

育児放棄を含め、各種の児童虐待に対応するためには、地域や関係機関等との連携が欠かせないものである。「こどもと家庭の相談室」の機能強化に努めることはもちろん、地域や関係機関等との連携をより一層強め、個々のケースに対して、より適切な対応が図れるように努めていく。

◎こどもみらい部

発達支援室に配置されている専門職による相談・支援や5歳児すこやか相談事業、巡回相談事業などを実施し、支援を必要とする子どもとその保護者への支援を行っている。専門的な支援の拡充とともに、地域における身近な支援者の発達障害の理解・啓発や支援者のスキルアップのための取り組みを今後行っていく。



◎こどもみらい部

事業によっては、数値化する等、具体的に成果を表すことが難しいものもあるが、表すことができるものは記載するよう努める。

◎こどもみらい部

指標については、各事業において数値化できるもので設定しているが、主な実施内容等の中で達成状況が見えるよう努める。

◎こどもみらい部

市民意見による事業はもとより、具体的に記載するよう努める。

◎こどもみらい部

指標については、各事業において数値化できるもので設定しているが、設定した理由を明確に記載するよう努める。

◎こどもみらい部

指標については、明確なものとなるよう努める。ひとり親家庭自立支援員相談件数の多少の良し悪しは無い。しかし、経済的な相談、生活上の相談等が多く、件数が多いということはそれだけ困っている人が多いと捉えており、相談の充実を図っていくよう努めていく。

## 提言

・育児放棄や児童虐待に対する予防、早期発見を目指すため、各種相談事業や家庭訪問など、相談体制を充実していくべきである。

・相談の結果どうなったのかを追跡し、その効果を把握すべきである。

・育児放棄・児童虐待の防止、待機児童の解消など問題は沢山あるが、地域、関連機関と連携して、減少の方向へ行くようにすべきである。

・子どもの数は減っているのに保育園を作り続ける矛盾点を鑑みた上で、5年10年という長いスパンでの子育て支援対策を抜本的に見直すべきである。

・3年後、5年後の整備計画は、3年後、5年後の予測数を使って計画すべきである。

・相談室は実情を把握するために非常に重要であるが、相談結果をどの様に活用し、改善を図っているのか？相談件数における改善割合を指標とすべきである。

・関連事業については事業単位を集約化することも検討すべきである。



## 提言に関するコメント等(総論)

### ◎こどもみらい部

本市では、「子どもが健やかに育つまち、子育ての喜びが実感できるまち、子育て支援を通してともに育つまち・鎌倉」を基本理念として子育て支援を推進してきた。

平成27年3月には、5か年を計画期間とする子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン～かまくらっ子をみんなで育てよう！～」を策定し、子どもの健やかな成長、子育て支援のための施策を推進している。

計画の中では、子育ての不安や悩みを解消するための体制の整備や子育て家庭に対する経済的支援等、「子育て家庭支援の充実」や障害のある子どもと家庭、ひとり親家庭など、特別な配慮や支援が必要な子どもの状況に応じた支援として「特別な配慮を必要とする子ども・子育て家庭への支援」などを基本目標として各事業を進めている。また、保育所では、待機児童が発生している中、量の見込みに対する確保方策に努めているところだが、計画値に乖離が生じているため、平成29年度計画の見直しを行い、更なる待機児童対策を図る。今後も社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、子育て支援施策を総合的かつ計画的に進めていく。

### ◎健康福祉部

児童虐待の通報件数が過去最高となるなど、子育て環境が年々深刻さを増す中、健康福祉部としては、生活困窮世帯に対する学習支援事業の実施や様々な相談窓口により問題解決に対応しているところですが、さらに子どもたちの福祉の充実に努めます。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・働く、働きたいお母さん方の声が待ったなしの状態であることから、早い対応を行おうとしている姿勢は評価できる。
- ・一日冒険遊び場の常設化を目指す、かまくら子育てメディアスポットにて、より充実した子育て支援情報の提供等、多様な施策をいくつもやっている。
- ・非常に多岐にわたる子育て支援にかかわる事業を行っており、地域や関連機関との連携など、子育てに関する相談体制の充実を図ることが目指している。
- ・就園奨励費の第2子の補助を市単独費で増額し、実質無償化を図ることなどは具体的な政策としてよい。効果が期待される。
- ・こどもの家の職員を確保するため、積極的な採用を進めるとともに、学童保育を行う民間事業者に対する補助金を創設することにより、学童保育のニーズ量確保に努めている。
- ・材木座保育園・稲瀬川保育園の統合保育園となる(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設に向けた諸手続きを円滑に推進している。
- ・玉縄子育て支援センターの開設や大船子育て支援センターの移設などを行った。
- ・こどもと家庭の相談室相談員による各センターへの出張訪問相談などを実施している。

評価の内訳					⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	1		→
効果	○	2	△	1	—	—

### 《課題》

- ・国連の児童の権利に関する条約では子どもの定義は「18歳未満のすべてのもの」とある。高学年、中高生の「子育て」へのサービスが事業として消極的ではないか。
- ・声の大きい人の意見のみが採用されて、圧倒的多数のサイレントマジョリティの視点が取り入れられてない傾向にある。
- ・鎌倉は子育てしにくい街と若い世代は思っている。子育てし易い環境づくりを考えていただきたい。
- ・「鎌倉市における子育て」に関する課題は整理されているか。多様なメニューが実施されているようだが、市民ニーズの軽重にそれらが見合ったものなのか整理が課題である。
- ・「子ども・子育て会議を開催し、意見を徴取し、子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン」の推進に努めた。」としているが、どの様な意見が出され、その結果具体的に何が推進されたのか。
- ・一日冒険遊び場の常設化を目指す、とあるがどのような効果をあげているか不明。
- ・待機児童数の目標が大きく現実と乖離している。平成28年度の待機児童をゼロにするための内容がどこにあるのか。
- ・多様化する保育ニーズに応えていることは評価できるが、複雑多岐にわたる活動であり、内容が十分理解しにくい。
- ・「公立保育所の効率的な運営と維持管理に必要な修繕を適時、適切に実施することができた。」としているが、何をもって効率的で適正だとしているのか。
- ・育児放棄や児童虐待に対する予防、早期発見を目指すため、各種相談事業や家庭訪問など、相談体制を充実していく必要がある。
- ・地域や関連機関との連携を強化し密なる子育て支援、相談体制の充実が必要である。
- ・目指すべきまちの姿の「育児放棄や児童虐待の減少」が指標になっていない。
- ・市内に4か所ある子育て支援センターの運営について内容につきPDCAの観点からその効果を検証する必要がある。
- ・指標としている「子育て支援センター利用者数(利用者(親子)の総人数)」の設定理由が「事業ニーズの把握」となっているが、参加者全員からアンケートをとる等を行わない限り、設定理由を満たさないため、事業ニーズを把握するための指標を新たに設定すべき。
- ・ファミリーサポートセンターはニーズが高いように見えるが、今後もさらに強化していくのか。それとも、他のセンターなどと分担していくのか。

### 《提言》

- ・子育てに関する相談体制は3人の相談員が窓口になって、育児放棄を含めた各種のケースに対応できているとあるが、それが氷山の一角であることはわかって取り組んでいることだろうが、相談のない家庭でもっと深刻な問題が起きていることを想像して、行政が早期に問題解決の一助になるよう新たな取組を模索してほしい。
- ・子育て支援センターを各地設置しているが、閉鎖的に思える。もっと気軽に相談できるセンターになることを望む。
- ・「子育て支援事業」「子ども・子育て支援制度推進事業」「育児支援事業」「育児家庭支援事業」の具体策に重複はないか。事業の整理と担当所管課の再編成が必要ではないか。
- ・子ども会館、子どもの家の運営内容について親子のニーズに合うよう見直しを望む。
- ・ふるさと寄附金による新たな設備充実も期待する。
- ・多くの記載事項が事業の実施までで、実施した結果何がどうなったのかが記述されていないため、事業の効果が見えない。全て数値による証明をする必要は無いが、どの様な方法で実施結果を評価し、実施後、何が変わったか等について明記すべき。